

# 調査員のコラム

## 「娘とのさかあがり」

子どもの権利調査員 西村 正

(在籍期間：H26.4～ )

私には三人の子どもがいますが、一番上の娘と私にこんな経験があります。

それは、娘がまだ“さかあがり”ができなかったときのことで、娘は、幼稚園ですでに何人かの友達ができているのを知って、自分もなんとかできるようになりたいと思っていたようです。

近くの公園にでかけると、必ず鉄棒のところに行って懸命に繰り返します。しかし、なかなかうまくいかないようでした。私は見かねて「どれどれ…」と、手取り足取りでコーチをしてみます。ところが、なかなか効果が現れません。そのうち、私の言葉や手には力が入り、応援の気持ちからしごきの気持ちに変わっていきます。そうすると、娘のほうも顔をしかめ、少しも楽しそうでなくなります。じきに「わたし、もうやめた…」と鉄棒から離れ、別の遊びに移ってしまいます。

そんな苦いことがあってから数日後、私が勤めから帰ると、娘が「お父さん、“さかあがり”できたよ。」と言います。数日前のことが頭にある私には、この言葉が信じられません。「ええ…っ、本当かい?…」

二人で再び公園に出かけて、「じゃあ、やっごらん。」

鉄棒を握り真剣な顔つきで地面をひと蹴りすると、娘の身体はひょいと鉄棒の上に…。「どうしてできたの?」と聞いてみますと、「幼稚園で、先生が教えてくれたもん。」(ギャフン!)

それまで、「自分はスポーツ指導者の端くれだぞ…」と、わが子に対してまで気負っていた私ですが、この時からそんな自分を考え直さざるを得なくなったという次第です。

「古者、易子而教之」(古くは子を易(か)えて之を教ふ)という、孟子の言葉を実感として噛みしめた一日でした。



# 相談員のコラム

## 「スマホ」

子どもの権利相談員 大道 和恵

(在籍期間：H25.4～H28.3)

ガラケー愛用の私は今、スマホデビューに揺れています。

毎日地下鉄で出勤していると、向かいの席に座る人たちのほとんどが、スマホを操作していることに驚きます。地下を走るので車窓の風景を楽しむことはできません。することといえば人間ウォッチングか読書、居眠りか携帯か、広告を読むか、でしょうか。

私は約 15 分の乗車時間を読書していますが、先日、隣に座った若い女の子がスマホを見て手を動かしているのが視界に入ってきて、気になりました。何をしているのだろうと、そっと覗くとゲームでした。人差し指をすばやく動かし続ける。目にも留まらぬ速さで画面が変わる。あれでゲームの勝敗が分かるのでしょうか…。若い人は、近距離動体視力がたっぷりあるからでしょうね。

ある時は、結構年配の女性がスマホゲームを続けながらホームに降り立ちました。降りる時のちょっとした間も休むことができないなんて、ゲームの依存性はすごいものだと思えます。

かくいう私も、PCのゲームにハマったことがありました。負けた時は、「もう一回、リベンジ！今度こそ！」と思い、勝った時は、「連勝記録を伸ばす！」と思う。やめるタイミングを逃してずるずる続け、眼精疲労と時間オーバーに後悔した苦い日々があったのです。PCを取り換えた時を期に、その後はやめました。ゲームにハマる自分の一面が分かったからです。楽しみと依存との境界線が難しい。しかし、何かを忘れた時は没頭できるゲームが気分転換になって、一時嫌なことを忘れさせてくれるという効果もあると思います。ゲームに限らず夢中になれることがあるのは、人生にとって必要なことだと思うのです。

そして、街中。季節の木々や、手入れの行き届いた花壇の花々が咲き誇る大通では、アジアからの観光客が、スマホ片手に美しい札幌の街を満喫しています。「すすきの」と表示したスマホを見せられて、「どっち？」と聞かれたことがあります。片言の英語と手振りで方向を伝えましたが、ガイドブックを片手に旅をしていた頃を思い出すと、隔世の感がします。最近はWi-Fiという、更に便利な機能も耳にするようになりました。しかし、便利な機能にはリスクが付きもの。アシストの相談にも、ネットのゲーム依存やラインのトラブルが寄せられています。最近スマホデビューした友人は、「ライン」は便利でとてもいい、でもセキュリティが心配で落ち着かないこともある、と打ち明けてくれました。ちょっぴりスマホデビューを頭の片隅で考えながら、悩む理由がここにもあります。それでも、いざその時は、安全に楽しむテクニックをしっかりと学んで、使いこなしたいものと思います。ちなみに、夫には先を越されてしまいました。

# 相談員のコラム

## 「あなたはどう思う？」

子どもの権利相談員 山本 文絵

(在籍期間：H26.4～H28.3)



「この写真は、朝陽と夕陽のどちらだと思いますか？」

昔、ブログでこの質問をしたことがあります。“朝陽派”と“夕陽派”は半々くらいでした。「キラキラした輝かしい朝陽ですね！」という人もいれば、「さみしくて悲しい夕陽だね…」という人もいました。まったく同じものを見ているにもかかわらず、こんなにも見え方が違うもの??と、自分で聞いておきながら驚いてしまいました。

写真1枚でこれだけ意見が分かれるのですから、身近な環境で起きるさまざまな出来事においてはもっと多くの意見に分かれ、もっと複雑なものになるのは当然だろうと思います。

「それはいじめだ」と言う人もいれば、「ただのケンカでしょ」と言う人もいる、  
「傷ついているように見える」と言う人もいれば、「気にしていないように見える」と言う人もいる…。

同じ場所・同じ人・同じ出来事を見たり・聞いたり・体験していても、一人ひとり感じ方は違うのですね。そうわかっているつもりでいても、どこかで“自分の感覚が正しくて、周りもわかってくれるはず”という思いをもっている自分がいることに気づかされたのがこの写真でした。

もちろん私は自分で撮ったこの写真が朝陽だという答えを知っています（ちなみに、初日の出です^^）。

「夕陽だと思う。なんか切ない感じ」と言う子どもに、「違うよ、朝陽だよ。明るくて神々しい感じでしょう」と教えることは簡単です。ついつい、“自分の思う正しい答え”を教えようとしてしまいます…。

それが、子どもにとっては自分を否定されたと感じたり、思いを伝えられずに自分の中にしまいこむことがあります。

子どもの心の声を聞きたい。

そう思ったときはまず、その子の感じたことをそのままに聞いてみませんか。

「あなたは、どう思う？」

# 相談員のコラム

## 「ストレスは成長の種」

子どもの権利相談員 競 和之

(在籍期間：H26.4～ )

イングランドの民話に『ジャックと豆の木』と言うのがあります。おっちょこちょいの主人公ジャックは、大切な牡牛を売りにいくときに不思議な老人と出会い、魔法の豆と交換します。カンカンに怒ったお母さんは、窓から豆を捨ててしまいました。次の朝、外に出たジャックは驚きました。その豆が天まで伸びていたからです。

さて、その豆の種類は何だったのでしょうか？豆の蔓は「右巻き」だったのでしょうか？「左巻き」だったのでしょうか？かすかに覚えているアニメの映像では右巻きだったように思います。

そもそも、豆には大きく2つに分けられます。「蔓あり」と「蔓なし」です。大豆や小豆は蔓なしです。枝豆を枝付きで売っていることがあります。それをイメージしたらいいでしょう。

インゲン豆やえんどう豆は蔓ありです。これらの豆は、全て「左巻き」で成長します。

2001年にノーベル化学賞を受賞した、名古屋大学の野依良治（のよりりょうじ）教授を覚えているでしょうか？野依先生は若い頃、インゲン豆を使って面白い実験をしました。

インゲン豆の蔓は、自然に任せたままだと全て左巻きで育ちます。

一つは、自然のままで「左巻き」に育てる。二つ目は、矯正して「まっすぐ」育てる。三つ目は、さらに矯正を強め「右巻き」で育てる。後者の二つは豆にとっては大きな逆境です。この三つの育て方で収穫量を調べる実験です。

さて、一番収穫が多かったのはどのグループでしょうか？

意外なことに、自然のままのグループより、「まっすぐ」に強制したものが1.5倍、「右巻き」にしたものは、なんと2.0倍の収穫があったそうです。

植物にとって負荷がかかることは、自分の子孫を残すためにはピンチの状態ですが、それを跳ね返す力が植物にはあるのです。

人間も同じではないでしょうか。ストレスや逆境を喜ぶ人はいません。しかし、それを乗り越えたとき、人は大きく成長するのかもしれない。

「獅子は我が子を千尋の谷に落とす（ししはわがこをせんじんのたににおとす）」「艱難辛苦汝を玉にす（かんなんしんくなんじをたまにす）」「苦勞は買ってでもせよ」ということわざもあります。

アシストセンターに相談してくる方は、皆さんさまざまなストレスや逆境を抱えているのだと思います。辛さは想像に難くありませんが、成長する種を抱えているのだという気持ちを持ちながら私は相談者と向かい合っています。